

九州産業大学

建築都市工学部研究報告

第6号

2023

九州産業大学建築都市工学部

九州産業大学

建築都市工学部研究報告

第6号

2023

目次

建築学科

[論文]

辰野金吾設計「安川邸西洋館」案の室内装飾における対称性と構成要素 -----	有水 玲香, 富田 英夫	1
大分市の戦災復興に関する調査研究 その5 ー石川栄耀による復興大分市と上田保の評価についてー -----	日高 圭一郎	5

都市デザイン工学科

[調査報告書]

雁ノ巣海岸および和白干潟における植物相（夏季）

-----柴田 仁, 東元 大誠, 内田 泰三 9

BULLETIN
OF THE
FACULTY OF ARCHITECTURE AND CIVIL ENGINEERING
KYUSHU SANGYO UNIVERSITY

No.6

2023

Contents

DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

SYMMETRY AND ELEMENTS IN THE INTERIOR DECORATION OF KINGO
TATSUNO'S "YASUKAWA RESIDENCE WESTERN WING" PROJECT

----- Reika ARIMIZU, Hideo TOMITA 1

A Study on the Post-war Reconstruction of Oita city

----- Keiichiro HITAKA 5

DEPARTMENT OF CIVIL AND URBAN DESIGN ENGINEERING

FLORA OF THE GANNOSU COAST AND WAJIRO TIDAL FLAT IN THE SUMMER

----- Jin SHIBATA, Taisei HIGASHIMOTO, Taizo UCHIDA 9

【論文】

辰野金吾設計「安川邸西洋館」案の室内装飾における対称性と構成要素

SYMMETRY AND ELEMENTS IN THE INTERIOR DECORATION OF KINGO TATSUNO'S "YASUKAWA RESIDENCE WESTERN WING" PROJECT

有水 玲香*¹, 富田英夫*²
Reika ARIMIZU, Hideo TOMITA

Abstract : This study clarifies the symmetry and elements in the interior decoration of the "Yasukawa Residence Western Wing" project designed by Kingo Tatsuno, finding that 2-1 revealed the number of wall surfaces with an axis of symmetry, and 2-2 revealed the following three aspects of the elements. (1) A comparison of double swinging and single swinging doors showed that the former was connected to the room used for serving guests. (2) Rooms serving guests had a high proportion of symmetrical axes. (3) The door decorations reinforced the symmetrical design of the walls.

Keywords : Kingo Tatsuno, Western Style-House, Interior Decoration

辰野金吾, 西洋館, 室内装飾

1. 序

1-1. 研究の背景

辰野金吾 (1854—1919) は「東京駅」(1914) を初め様々な公共建築の設計に関わっているが、個人の邸宅の設計に関わった例は僅かしかない。竣工した事例だと「渋沢栄一邸」(1888)、「辰野金吾自邸」(1911)、「松本健次郎邸」(1912)などが挙げられる。そのうち、「松本健次郎邸」の施主である松本健次郎は、「安川邸西洋館」案の施主である安川敬一郎の子である。実現している「松本健次郎邸」とは異なり「安川邸西洋館」案は実現には至っていないものの、辰野は親子二代の西洋館設計に携わった。ただし「安川邸西洋館」案は辰野葛西事務所が設計し、「松本健次郎邸」は辰野片岡事務所が設計した。安川邸当初の西洋館計画 (1889年から1907年頃) は、安川敬一郎の意向により実現されなかったことから幻の安川邸と呼ばれている。

1-2. 既往研究

藤森 (2017) は「松本健次郎邸」と「安川邸西洋館」案の設計は同時に行われ、規模は「安川邸西洋館」案の方がはるかに大きかったと指摘している。内田 (1990)、足立 (1998) は「安川邸西洋館」案のインテリアにおけるアー

ル・ヌーヴォーの造形を指摘している。一方外観については、前述の内田、足立が辰野の外観のハーフティンバーに日本的な意味を見出した指摘に留まっている。

また、河上ら (2014) は、辰野の建築において外観におけるピクチャレスクの表現について言及し、井口ら (2016) は辰野が影響を受けたウィリアム・バージェスの作品との構成方法の類似性を指摘している。このように外観における辰野の独特の表現については研究が多いものの、インテリアについては前述のように、アール・ヌーヴォー的な造形の指摘にとどまっている。

1-3. 研究の目的と方法

そこで本研究では、「安川邸西洋館」案において室内装飾がどのような意味を持つのか、室内装飾から見た部屋同士の関係性、構成要素の装飾性の意図を明らかにすることを目的とする。

研究方法として、2章1節では各部屋詳細図、平面図、天井伏図を基に展開図を作成し、「安川邸西洋館」案を室内装飾における対称軸と構成要素 (両開き扉、片開き扉、暖炉、窓、壁) を分析する。2章2節では展開図と各部屋詳細図より扉の装飾性について分析する。

1-4. 研究資料

研究には『建築工芸叢誌』(1912年2月～9月)に5回に分けて総計23ページにわたり掲載された安川邸西洋館

*1 工学研究科産業技術デザイン専攻建築デザイン分野

*2 建築都市工学部建築学科

建築工事の図面を使用する。

1-5. 分析対象

各部屋詳細図に掲載されている各部屋の壁面は、部屋によって資料状況に大きな差が見られる。分析は壁面の資料が揃っている、または壁面の資料に不足があるが不足分は左右対称等の理由で省略されていると考えられ推定復元が行える部屋を対象とした。その条件を満たしたのは、玄関、応接室、広間、表階段室、食事室、裏階段室、一階書斎、一階書斎付属室、張出廊下、二階書斎、二階書斎付属室の11室である。

2. 図面における室内装飾の対称軸

2-1. 対称軸を有する壁面の数の分析

図1は詳細図より作成した玄関の展開図となる。図中(α)(β)のように床レベルに高低差があると考えられる場所は床面のレベル差によって壁面を分け、玄関の壁面を(a)～(f)の6面の壁面に分けた。

図1中赤い線が壁面の対称軸の中心を示す。この対称軸を中心に壁面のデザインが左右対称である状態を対称軸があるとし、赤い線を引いている。左右対称では無い場合

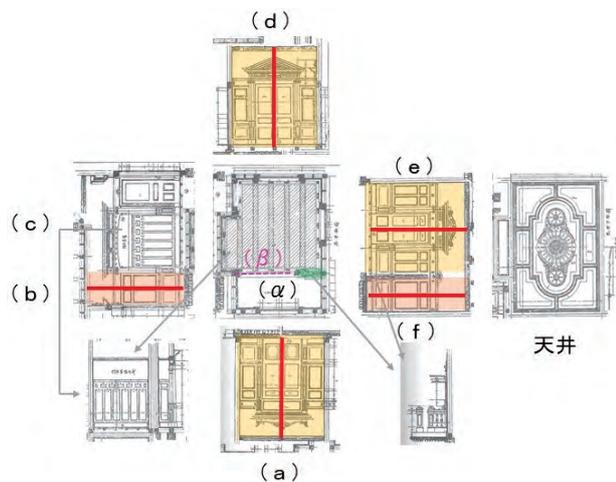


図1 玄関（展開図）（着色・加筆・レイアウトは著者による）

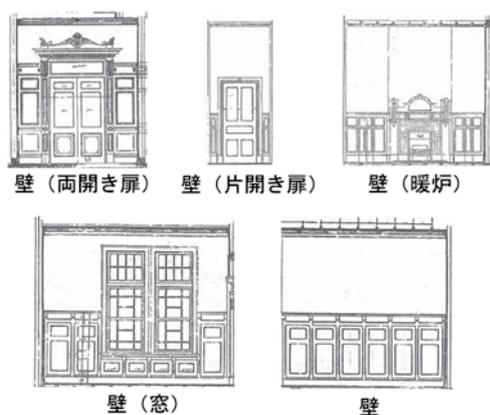


図2 2章における分析対象となった構成要素

は対称軸が無い場合として、図1には記載をしていない。図1と同じ手順で研究対象である11室の対称軸の有無、数をまとめた結果を表1とした。

表1 対称軸を有する壁面の数（左の数が対称軸のある壁の数）

壁面の分類 部屋名	壁 (両開き扉)	壁 (片開き扉)	壁 (暖炉)	壁 (窓)	壁
玄関	3/3	0/1			2/2
応接室	0/1	1/1	0/1	1/1	1/1
広間	3/3	4/4	1/1	4/4	2/2
表階段室	1/1	0/1		3/3	0/1
食事室	2/2	0/1	1/1		2/2
裏階段室		0/1		0/1	0/2
一階書斎	1/1	0/1	0/1	0/2	3/3
一階書斎 付属室		0/1		1/1	2/2
張出廊下	1/1	1/1		2/4	4/4
二階書斎	1/1	0/1	0/1	0/2	3/3
二階書斎 付属室		0/1		1/1	2/2
計	12/13 (92%)	6/14 (43%)	2/5 (40%)	12/19 (63%)	21/24 (88%)

表1中の「壁（両開き扉）」は、両開き扉のある壁面を指し、同じように「壁（片開き扉）」は片開き扉のある壁面、「壁（暖炉）」は暖炉のある壁面、「壁」は扉や窓のような構成要素（図2）の無い壁面を指す。

表1より「壁（両開き扉）」「壁」「壁（窓）」「壁（片開き扉）」「壁（暖炉）」の順で対称軸の割合が高いことが分かる。外観デザイン、機能上の制約や配管上の制約などを考慮すると「壁（窓）」「壁（暖炉）」の室内装飾における対称軸は他の3項目と比べ少なくなることは順当である。一方で構成要素の存在しない「壁」に関してはその反対で、機能上の制約や配管上の制約などを考慮する必要が無い為に、デザインにおける対称性の割合が高くなったのではないかと推測した。

しかし「安川邸西洋館」案の中央に位置する広間を見ると、窓や暖炉の項目も含め全ての項目で対称軸が存在することから、デザインにおける対称性が優先される場合もあることが分かる。

2-2. 構成要素の分析

(1) 対称軸と両開き扉、片開き扉

「安川邸西洋館」案内部の扉には両開き扉と片開き扉が存在する。研究対象に選んだ11室の中には同じ部屋の中に両開き扉と片開き扉の両方が存在する部屋も多くある。両開き扉、片開き扉の構成上の違いを分析するため表2を作成した。

表2より両開き扉が繋がる空間は広間や表階段室など名前の付いた部屋なのに対し、片開き扉は廊下に繋がるものが多く見られる。

図1の玄関においては、合計4枚の扉があり、その内

(a) (d) (e) の壁面にある 3 枚の扉が両開き扉で、それぞれ車寄、広間、応接室へと繋がっている。一方で (c) の壁面にある残り 1 枚の扉は片開き扉であり、廊下へと繋がっている。

このように「安川邸西洋館」案の室内装飾において、接客にも供すると推測される部屋（玄関、応接室、広間、表階段室、食事室、張出廊下）に繋がる扉は両開き扉であり、また両開き扉に関しては、扉の対称軸と壁面の対称軸が一致するといった特徴が見られる。

このことから以後、両開き扉に関して注目して分析を進めた。

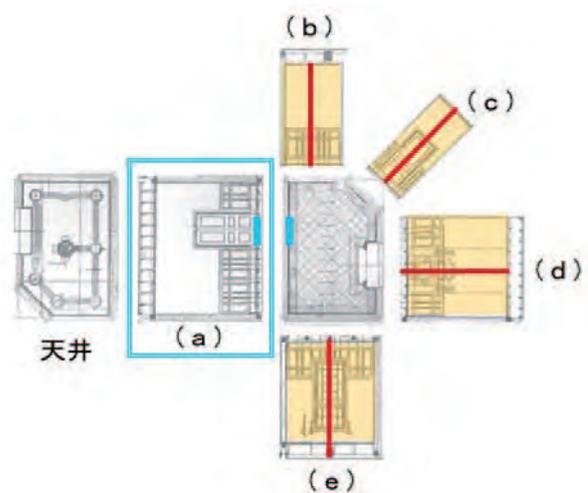


図3 扉の中央に対称軸が存在しない両開き扉（応接室）
（着色・加筆・レイアウトは著者による）

表2 各扉と接して配置される部屋

部屋名	壁 両開き扉	接する 部屋名	壁 片開き扉	接する 部屋名
玄関	3/3	車寄、広間、応接室	0/1	廊下
応接室	0/1	玄関	1/1	廊下
広間	3/3	玄関、食事室、表階段室	4/4	廊下
表階段室	1/1	広間、張出廊下	0/1	廊下
食事室	2/2	広間、屋外	0/1	廊下
裏階段室			0/1	物置
一階書斎	1/1	廊下	0/1	付属室
一階書斎 付属室			0/1	書斎
張出廊下	1/1	表階段室	1/1	像備室
二階書斎	1/1	廊下	0/1	付属室
二階書斎 付属室			0/1	書斎
計	12/13		6/14	

(3) 両開き扉の装飾

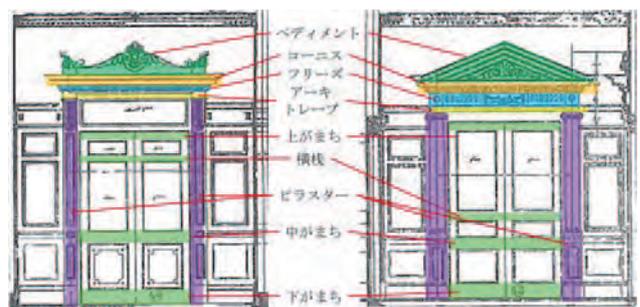


図4 玄関の両開き扉（左：車寄側、右：広間側）
（着色・加筆は著者による）

(2) 壁面の対称軸と両開き扉の中心軸の一致・不一致

表1における壁面の分類中の「壁（両開き扉）」の項目より、後述する一箇所を除き、それ以外の12箇所すべての両開き扉はその中心軸と壁面の対称軸が一致していることが分かる。

一方で、扉の中央に対称軸が存在しない両開き扉が、応接室に存在する（図3）。この扉は隣に位置する「玄関」と「応接室」を繋ぐ両開き扉となっている。この扉を「玄関」側から見た図は図1(e)となり、壁面の中央に位置する両開き扉となる。しかし同じ扉を「応接室」側から見ると図3(a)となり、壁面の中で右寄りになっており、壁面の中央と両開き扉の中央が一致しない。これは「玄関」側の扉の位置が優先された結果、「応接室」側の扉の位置が壁面の中心からずれ、対称軸が存在しないという結果になったのではないかと考えられる。

これらの結果より、部屋全体の壁面において対称軸の割合が高くなる部屋が「安川邸西洋館」案において比較的重要視される部屋としてデザインされているのではないかと考えられる。

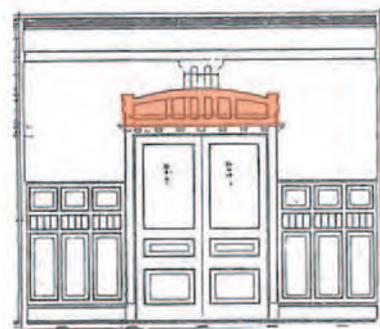


図5 食事室の両開き扉（広間側）（着色は著者による）

図4・図5のように、両開き扉には装飾が見られる。これらの装飾はどの扉においても左右対称なデザインになっており、これらの装飾が存在することによって壁面の左右対称性が強調されている。

図4は玄関の扉で、「安川邸西洋館」案の扉の中でも装飾性が強いものとなる。古典主義建築のオーダーのシステ

ムによる構成要素が見られる。図5は食事室の扉であり、こちらは扉の装飾自体はあるものの、玄関とは異なったアール・ヌーヴォー的な曲線を用いた要素が見られる。このように両開き扉の装飾には様式的な統一はないものの左右対称なデザインであることは共通している。

3. 結

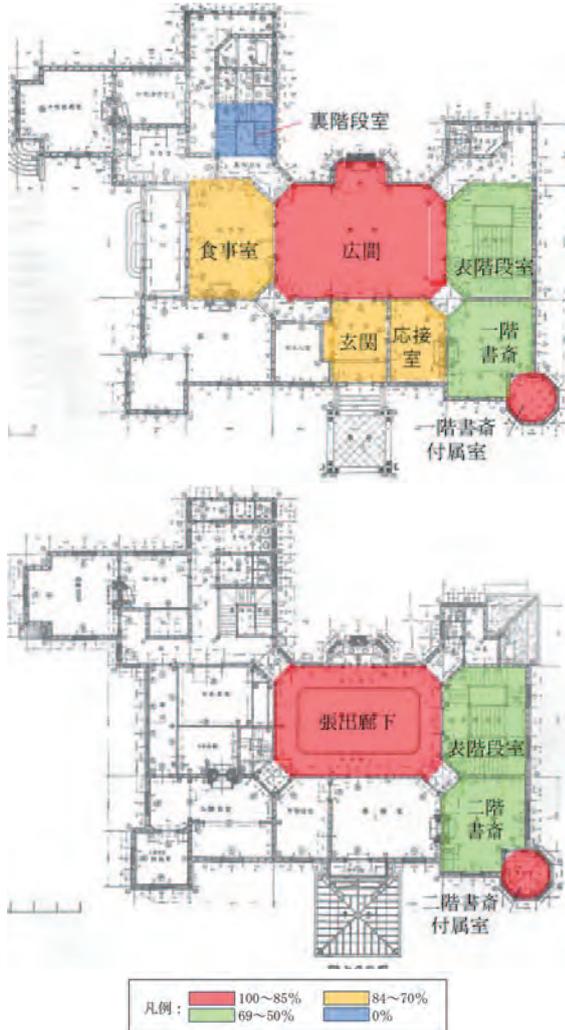


図6 対称軸を有する壁面の割合が高い部屋の配置
一階平面図(上)、二階平面図(下)
(着色・加筆は著者による)

以上の分析より「安川邸西洋館」案では接客にも供する部屋にはより多くの壁面において対称性が見られることが明らかになった。また、隣り合った2つの部屋のうち、片方の部屋の対称性を優先した結果もう片方の部屋の対称性が損なわれる場合がある。

これらの壁面の対称軸の割合を基にして、「安川邸西洋館」案における分析対象11室を壁面の対称軸の割合が高い順に並べた結果が表3である。そして、表3で示した割合を4段階に色分けして平面図で表すと図6のようにな

った。

図6より対称軸の割合が高い部屋は「安川邸西洋館」案の中でも中央部に集まっていることが分かる。また、接客空間としても使われるパブリックな用途の部屋が上位に見られる。

「安川邸西洋館」案については、図面と同時に文章による仕様書も掲載されていることから、今後は仕様書も分析に加え、より総合的な考察を行う必要がある。

表3 各部屋の対称軸を有する壁面の割合(高い順に表示)

	部屋名	対称軸を有する壁面の割合
1	広間	100%
2	張出廊下	86%
〃	(一階書斎付属室)	86%
〃	(二階)書斎付属室	86%
5	玄関	83%
〃	食事室	83%
7	応接室	80%
8	表階段室	67%
9	(一階)書斎	50%
〃	(二階)書斎	50%
11	裏階段室	0%

表出典

表1~3: 参考文献1を基に著者作成。

図版出典

図1、3~6: 参考文献1を基に著者が編集。

図2: 参考文献1

参考文献

- 『建築工芸叢誌』【復刻版】(1912年2月~9月)、内田青蔵(監修)、柏書房、2006年。
- 内田青蔵「松本健次郎邸と住宅」、所収:『東京駅と辰野金吾 駅舎の成り立ちと東京駅のできるまで』東日本旅客鉄道、1990年、pp.116-119。
- 足立裕司、藤岩和文「旧松本健次郎邸とその建設経緯に関する考察 住友本店臨時建築部と日本のアール・ヌーヴォー 1」『日本建築学会計画系論文集』511号、日本建築学会、1998年9月、pp.193-199。
- 河上眞理、清水重敦『辰野金吾』ミネルヴァ書房、2015年。
- 社団法人西日本工業倶楽部『重要文化財 旧松本家住宅洋館日本館修理工事報告書』、1982年。
- 清水重敦、河上眞理『佐賀偉人伝08 辰野金吾』佐賀県立佐賀城本丸歴史館、2014年。
- 藤森照信『現代日本の洋風建築 栄華編』筑摩書房、2017年。
- 井口博道、富田英夫「辰野金吾設計『安川邸西洋館』案(1908)の形態構成に関する研究」『日本建築学会研究報告九州支部』第55巻、2016年、pp.617-620。

【論文】

大分市の戦災復興に関する調査研究 その5
-石川栄耀による復興大分市と上田保の評価について-

A Study on the Post-war Reconstruction of Oita city

日高 圭一郎*1
Keiichiro HITAKA

Abstract : This paper has mentioned about the evaluation of Oita city after the post-war reconstruction and UEDA Tamotsu, a mayor of Oita city who led its reconstruction. The evaluator is ISHIKAWA hideaki, urban planner. It was understood from this study that original idea of Mayor UEDA is highly evaluated.

Keywords : *Post-war Reconstruction, Oita city, UEDA Tamotsu, ISHIKAWA hideaki, Shisei*
戦災復興, 大分市, 上田保, 石川栄耀, 市政

1. はじめに

これまで、筆者は戦災復興後の大分市(以下、復興大分市という。)と、大分市の戦災復興を主導した上田保大分市長(以下、上田という。)が、当時、どのように評価されていたかについて、収集できた文献情報等に基づき、考察を行ってきた。

2021年度の拙稿¹⁾では、当時の文化人らによる復興大分市の評価について考察を行った。本稿では、その評価者の一人である都市計画家の石川栄耀(以下、石川という。)の復興大分市に関わる論評を詳細に分析し、考察を行っている。

分析と考察の対象とした石川の論評は、「名都の表情条件と分類」である。これは、1954年に当時の全国市長会が発行した機関誌「市政」²⁾に掲載されたものである。

この論評は、石川が没した1955年の前年の1954年に発表されたものであり、最晩年のものになる。また、1954年は、大分市の戦災復興が概ね完了した時期でもある。

2. 「名都の表情 条件と分類」について

(1) 「名都の表情 条件と分類」の構成

「名都の表情 条件と分類」は、大分市を含む複数の都市を対象とした論評であり、石川による「名都」の都市美構成に関する考えが示されている。

「名都の表情 条件と分類」の構成を示す。()には各

章・節の文字数^{註1)}を示している。

- 一、名都の条件 (3256)
- 二、日本名都抄 (10599・(一)～(一〇)を含む)
 - (一) 松江市 (1319)
 - (二) 盛岡市 (1209)
 - (三) 釧路市 (835)
 - (四) 札幌市 (891)
 - (五) 大分市 (954)
 - (六) 萩市 (702)
 - (七) 新潟市 (2214)
 - (八) 尾道・三原・福山市 (938)
 - (九) 熱海・別府・伊東市 (791)
 - (一〇) 那覇市 (587)
- 三、名都分類 (1004)

石川は、第一章で「名都」の条件を示し、第二章では、その条件に見合う国内の14都市を挙げ、それぞれの都市美について解説している。第三章においては「名都」の分類を行い、各類型について解説し、最後に、自らの考察を述べている。

(2) 石川栄耀による「名都」の条件

石川は、「名都」の条件を、第一章にて以下のように示している。

第一に、そのどれもが美しい水をもっている。美しい海岸

*1 建築都市工学部建築学科

か、湖辺か、或いは流水が都市に接しており、それが家並の中に埋もれることなく、余裕ある緑で保護されている。

第二に、そうでない場合、これに代る美しい公園乃至緑道が市の中心にある。

第三に、市民の「登高、展望」し得る丘が市の周囲にあつて、その都市を抱いている。

第四に、美しい建築が造型的に集結しているか、水景に望むか、山腹にあつて、余情を残している。

第五に、歴史・教養・人心のどれかに関する市民感情が、ソコハカとなく市中を流れている。

以上の条件については、欧米の都市にはあてはまるが、後進的な日本においては、以下に示す都市美構成の技法が必要としている。

名都の条件吟味が、些か低迷した形となった。とまれ「条件」上述の如しとして、後進性にあるわが国の名都は、更に次の如き条件強化を必要としよう。

一、丘陵と水辺の保護。確然と緑地によつて修飾すること。

一、丘陵及び水辺が乏しいときは、中央公園・緑道・広場を以て代えること（乏しくなくても、望ましい）。

一、同系建築の造型集結、景観配置（水辺・丘上）をすると共に、建築の意匠特に配色に注意すること。

一、可能な限り建築と緑地・緑道による都市美の軸及び緑地系列を明らかにすること

一、重要な史蹟（文人遺蹟）は保護し、市民の親和に必要な施設乃至その教養向上に要する施設を交通便利な地域に設置すること等。

恐らくこれは、ヨーロッパ、日本を問わず都市美構成手法の最大公約数とすべきものであろう。

以上が、石川が示した「名都」の条件と、日本における都市美構成の技法である。

(3) 石川栄耀による「名都」の分類

石川は、「名都」の分類について、第三章にて以下のよう示している。

三、名都分類

以上、取り敢えず顕著な幾つかの名都を並べて素描してみた。

そして、これが次の三つにわけられそうなことに気づくのである。

甲 松江形式のもの

○盛岡 ○釧路

京都・福岡・宇部等

これは、水陸両景軸が判然としている。

ただ、この他に水景軸が郊外にずれ地帯美的な形になつてしまった、これの変形とも称すべきもの、及び水景軸の弱い

ものがある。

仙台（前者の例）

津（後者の例）

この形式のものを景軸形式と言おうか。

乙 札幌形式のもの

○大分

八幡

これにも景軸がないとはいわないが、むしろ造型性の方が強いので、造型形式と言った方が当らう。

丙 萩形式のもの

この形式のものは、景観地域の組立てによつて、境域を育み出すのである。

○新潟

この形式は、前期二つが企画的なのに対し、多少なりとも自由性をもっているので、自由形式乃至地域形式と呼ぶのが適当であろう。

丁 尾道形式のもの

この形式は、高所よりの展望に景観上の特質をもつ、いわば展望形式のものである。この場合、もちろん山水の条件は具備されていなければならないが、特に建築の色彩が大きく物をいう。

○熱海○別府○伊東○那覇

函館・神戸等

（○印は、名都として典型的なもの）

以上四形式のうち、甲と乙とが構成的であり、丙と丁とが状態的であるとも言える。

よつて、これを大きく

構成美的な名都と

状態美的な名都と

に分けるべきかも知れない（そして前者にヨーロッパ系の香りがあり、後者に東洋的な香りが強いとも言えそうである）。

かく名都の分類を終つたところで、私はもう一度前に述べた名都条件論に帰りたい。

それは、このように幾つかの都市を現実分析して来ると、日本の都市美の性格につき再応の吟味をしてみたくなるのである。

それは、この論の初めに述べたような日本の都市美が欧米の（というよりは、ヨーロッパの）それに比し後進的であるという考え方に対し、むしろ「日本の都市が、ヨーロッパのそれのように造型的に的確でないことが却って動的な、新しい形態にあることを物語るのではないか」ということである（絵画におけるポナールの）。

むしろ、そこには都市計画に対する低文化、社会性というようなことに対する厳しい批判に反する反省は要る。しかし「新潟」を見て以来、何か後進性だけでは言い切れないものがあるのを感じたのである。

—むしろ、さればといつて、初章の立論を顛そうというのではない。或いは、民族に対する感傷がそうさせるのかも知れ

ないからである。

以上が、石川による「名都」の類型化である。大きく、「構成美的な名都」と「状態的な名都」があるとしている。さらに、「構成美的な名都」は「甲 松江形式のもの」と「乙 札幌形式のもの」の2類型に、「状態的な名都」は「丙 萩形式のもの」と「丁 尾道形式のもの」の2類型に、分類している。復興大分市は「構成美的な名都」で「乙 札幌形式のもの」と位置付けられている。

3. 石川栄耀による復興大分市の評価

(1) 復興大分市の類型

石川は、復興大分市を「札幌形式のもの」とし、「構成美的な名都」と評価している。さらに、この形式については、景軸は弱い造型性が強いとし、「造型形式」としている。この「造型形式」については、札幌市、大分市の他、当時の八幡市を挙げているが、八幡市の論評は示されていない。札幌市に関する論評は以下のとおりである。

(四) 札幌市

人はよく札幌を推賞する。しかし、その証左と考えられている街路網に関する限り、自分は常にとらない。それに関する限り、これは何の奇もなき、実に寒々しい、荒涼たる基盤割にすぎない。北風のときは、顔もあげられまい。

第一、端景のない直線道路は、都市美的に世界的な評価が済んでいるはずである。

その冷たい眼で札幌を見ているうちに、いつしか「にも拘らず、ここに」存外な美しさがあることが解つて来た。

しかしその重点は、大通りと称する緑地帯である。これが、駅正面通りに直角につけられている。この大通りがワシントンのコツピイだというのが、ただ建築的にはそれほどの留意は払われていない。春から秋にかけて花壇になり、遊歩場になっているときは、稀なニュアンスである。

この大通りが、駅前通りを切つて創成川に交わる。その交点に北海道開拓庁時代の建物たる豊平館がある。配置は誠に拙ないが、一応の所に位している。創成川は沿岸を緑の絨毯んで飾りつつ北上する。

これが都市美構造の軸である。敢えていうなら、この両者が水系・陸景両軸ということになるであろうが、創成川を水景軸とするのは、少し扱いすぎになるかも知れない。しかりとすれば、これは明らかにルネッサンスの手法である。

この都心部の核をめぐつて、南に中島公園、北に北大がある。

また駅と大通りとの間に道庁・植物園、更に円山公園が開いている。

ただ市の東部は、豊平川といい、白石町といい、全然アクセントがないが、遥かに月寒の牧場が緩やかな傾斜を保っている言わば言える。また、それを更に北上すれば、石狩川が

ツンドラから砂丘へ、そして北海へと悠久な水を流している。そこには、啄木の歌つたハマナスの花が、砂混りの風に吹かれている。

かくて二度、我々は「厚手」な、奥行のある名都にぶつかつたことになるのであるが、ただ、その総べてが（円山公園と石狩川と月寒は別として）人為的な構成であり、結局道庁の位置もワシントンのなところがあるところから見て、これはやはり日本に稀なルネッサンス形式のものとなすべきであろう。従つて自分はこれを前述の一連と別にし、第二の範疇にしたいと思うのである。

以上が、石川による札幌市の論評である。「大通りと称する緑地帯」、つまり、現在の「大通公園」を高く評価している。次に、大分市に関する論評をみよ。

(五) 大分市

大分は明かに札幌系の都市である。

或いは、札幌よりも近代的だとも言える。

この駅前広場は広々として取つてあり、正面道路が三六米で張られている。これに沿うてアーケードのついた商店街が現出する。

正面道路の真中どころで、これに東西にまた広路が出来ている。この第二の広路に沿うて城があり、その中に県庁がくすぶつている。城の外部に、堀に沿つて市役所その他の官公衙が集結されている。

しかし、これまでは平凡である。平凡でないのは、この城から直北に（従つて駅正面道路に平行に）緑道があることである。広路の中央が花壇であり、その中どころに級友朝倉文夫作の滝廉太郎像がある。その姿誠に柔かく、級友の愛が全身を包んでいる。

些か斜に構えて、椅子にかけた三十有歳の音楽家の姿はこのままに、今は若い子女をして恋わしめるに足る。何れにせよ「この彫刻を思いついた人」「これを彫つた人」達の生涯の傑作でもあろう。大分はこの像があるが故に、また、その緑道があるが故に、我々にも懐かしき都市になる。

大分市長は、かなりな行動派と聞き及んだが、その行動の底には、滝廉太郎に通う詩があるものと見た。

彼の構想になる全国の名木を集めたジャングル公園（子供達が勝手につけた名）、小品の如き公園墓地。それに彼が建設前に必ず色彩の調和をするという、その効果の美しいモデルスクール、火葬場など、宝石のように全市を飾っている。

特に市長の奇才は、高崎山公園という別府との間の海岸沿いの丘の山猿をなづけて、文化財としてしまったことである。

和かい秋光の中に、人を人ともせず戯れている猿族は、見事な観光財である。猿の一匹は全群のリーダーであるという。彼はその威を示すべく、尾を軽く上にあげている。

また、その一匹は全群の安危を背負つて、看視に当つている。看視猿は一段高い石垣の上に、人間の投げる餌には眼も

くれず、小賢しき眼を八方に配っている。

相撲をとる子猿。高い杉の木の天辺で呑気な展望をほしいままにしている猿。屋根の上をシタリ顔に歩き廻っている猿。猿々々。誠に輝かしき猿の世界である。

これあることの誠によいかな、である。

この郊外に、更に「荒城の月」の作曲の対象となった城郭があるはずであるが、行かなかつた。しかし別府の俗に対し、大分の知性は郊外の隅々にまで活々と通っている。

以上が、石川による大分市の論評である。

札幌市、大分市については、戦災復興を含む近代期に造られた都市美を、石川は「造型形式」とし評価している。

札幌市は、現在の「大通公園」を評価し、大分市については「遊歩公園」を評価している点に両市の共通性がある。八幡市についての論評はないが、推測するに「八幡国際通り」を評価し、同類型としたと考えられる。

石川は自著³⁾で、都市美構成の技法として「造型式構法」を、以下のように示している。

造型式は都市美技法の中建築群を主体とした公館地帯、住居地帯、住居地帯乃至文化地帯（生産地帯に対し）等を構成する手法である。これは一定の法則なきままに、原始都市計画以来発達し、ルネッサンスで完成を遂げ、尚何等かの形式を転ぜんとする傾向を見せているものである。

ただそれらの手法を通じ結局

美観広場 美観道路（緑道） 水路 主要建築物彫刻等の適正な組合せが根幹を成していることは解される。

つまり、「美観道路（緑道）」を持つ、札幌市、大分市、八幡市を「造型形式」の「名都」とし、評価をしたものと考えられる。

そうであれば、名古屋市の「久屋大通」、「若宮大通」、仙台市の「定禅寺通」、四日市市の「中央通り」等を同類型として挙げていないことには疑問が残るが、札幌市、大分市、八幡市の共通性からは、公園や緑道・緑地をともなった広幅員街路による都市美をもって「造型形式」の「名都」と位置付けたものと考えられる。

さらに、石川が名都とした14都市のうち、市長の特徴について触れているのは、大分市だけである。大分市については、都市美の評価に加えて、当時の市長、つまり、上田に注目し、その取組を高く評価していることが確認できる。

(2)「名都の条件」と復興大分市の照合

「名都の条件」と復興大分市の論評を照らし合わせると、復興大分市については、主に第二、第五の条件に該当するように考えられる。

市の中心に公園や緑道が整備されており、第二の条件を満たしている。

さらに、緑道には滝廉太郎の銅像が設置されている。一方、郊外には山猿を手懐け、文化財化を図った高崎山がある。独創的な公園の発案や公共施設の色彩指導を行う知性的な市長がいる。つまり、歴史・教養・人心に関する市民感情が市中を流れているという第五の条件を具現化しているのが、この銅像や高崎山、さらに市長であり、石川は、それらを高く評価したと考えられる。

4. まとめ

石川栄耀による「名都の表情 条件と分類」にて、復興大分市がどのように評価されていたかをみてきた。

まず、石川は復興大分市を「札幌形式のもの」とし、「構成美的な名都」と評価している。また、造型性が強いとし、「造型形式」の「名都」とも位置付けている。この「造型形式」の「名都」は、公園や緑道・緑地をともなった広幅員街路による都市美を構成していることが特徴として挙げられる。復興大分市については、「遊歩公園」が高く評価されている。

さらに、石川栄耀は、都市美の評価に加えて、当時の大分市長、つまり、上田保に注目し、その取組を高く評価していることが確認できた。

注釈

1) 文字数は、Microsoft Office Word を使用して計測した。空白は含めていない。

参考文献

- 1) 日高圭一郎：大分市の戦災復興に関する調査研究 その3-復興大分市と上田市長に対する評価について-、九州産業大学建築都市工学部研究報告、第4号、pp. 13-20、2022年3月。
- 2) 石川栄耀、名都の表情 条件と分類、市政 第3巻 第1号、pp. 22-34、1954年1月15日。
- 3) 石川栄耀、新訂 都市計画及び国土計画、産業図書株式会社 改訂3版、1957年5月20日。
- 4) 中島直人、西成典久、初田香成、佐野浩祥、津々見崇、都市計画家 石川栄耀 都市探求の軌跡、鹿島出版会、2009年3月20日。
- 5) 高崎哲郎、評伝 石川栄耀 〈社会に対する愛情、これを都市計画という〉、鹿島出版会、2010年4月20日。
- 6) 仲間浩一、牛島宏、八幡市の戦災復興都市計画における八幡駅を基点とした景観軸形成について、土木計画学研究・講演集 Vol. 29、2004年。
- 7) 佐々木葉、名古屋の百メートル道路-戦後における空間ストック利用とデザイン-、国際交通安全学会 Vol. 23、NO. 4、1998年3月。
- 8) 越澤明、復興計画 幕末・明治の大火から阪神・淡路大震災まで、中公新書、2005年8月25日。

【調査報告書】

雁ノ巣海岸および和白干潟における植物相（夏季）

FLORA OF THE GANNOSU COAST AND WAJIRO TIDAL FLAT IN THE SUMMER

柴田 仁*^{1, *2}, 東元 大誠*^{1, *3}, 内田 泰三*¹

Jin SHIBATA, Taisei HIGASHIMOTO, Taizo UCHIDA

Abstract : The flora of the Gannosu-kaigan (Gannosu Coast) and Wajiro-higata (Wajiro Tidal Flat) located in Fukuoka, Japan, was surveyed for the purpose of obtaining information on the current status of endangered and invasive alien plant species in late July and late August, 2022. Results were as follows; in total, one hundred five plant species were observed including seventy-two native and thirty-three non-native species. Of them observed, plants such as *Triglochin maritima*, *Limonium tetragonum* or *Rumex dentatus* were endangered species. As for *Atriplex subcordata*, it was native species which was not supposed to grow in this region. Invasive alien species, for example- *Lilium formosanum*, *Yucca gloriosa*, *Eragrostis curvula*, *Paspalum urvillei*, *Triadica sebifera*, *Oenothera laciniata*, *Rumex crispus*, *Silene gallica*, *Atriplex prostrata*, *Opuntia ficus-indica*, *Hexasepalum teres*, *Cuscuta campestris*, *Lantana camara*, *Verbena brasiliensis*, *Bidens frondose*, *Coreopsis lanceolata*, *Erigeron annuus*, *Senecio madagascariensis* and *Solidago altissima*, were also identified. In addition, it was suggested that the habitat of *S. madagascariensis* which is one of the invasive alien species mentioned above has been in rapid expansion this area.

Keywords : *Atriplex subcordata*, *Endangered species*, *Invasive alien species*, *Leymus mollis*, *Senecio madagascariensis*
ハマアカザ, 絶滅危惧種, 侵略的外来種, ハマニンニク, ナルトサワギク

1. はじめに

福岡市は、人口 1,645,100 人(令和 6 年 2 月 1 日現在⁵⁾)を擁する大都市であり、九州地域の行政・経済・交通の中心となっている。同市が面する博多湾は、昭和 50 年代以降、海浜の埋め立てが繰り返され、新たな港湾、シーサイドモモチやアイランドシティといった居住エリアが形成されてきた⁴⁾。そして、現在においても、大規模な埋め立てが検討されている¹⁰⁾。

一方、博多湾東部に位置する雁ノ巣海岸には、都市部では珍しく、海浜植生に本来みられる成帯構造が残されている¹⁾。同じく、博多湾東部に位置する和白干潟は、国指定鳥獣保護区(集団渡来地)でもあり、シギ・チドリ類をはじめとする渡り鳥の中継地・越冬地として全国のおよび国際的にも重要なサイトになっている⁶⁾。出嶋ら⁷⁾によると、雁ノ巣海岸ならびに和白干潟は、ハマニンニク(写真 1)およびハマアカザ(写真 2)の南限となっている可能性もあり、博多湾東部は生物地理学的観点からみても極めて貴重なエリアといえる。



写真 1 ハマニンニク(雁ノ巣海岸)
Photo 1 *Leymus mollis* (Gannosu Coast)



写真 2 ハマアカザ(和白干潟)
Photo 2 *Atriplex subcordata* (Wajiro Tidal Flat)

*1 九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科

*2 現 株式会社竹中工務店

*3 現 東京電設サービス株式会社



写真3 ナルトサワギク (雁ノ巣海岸)
Photo 3 *Senecio madagascariensis*
(Gannosu Coast)

雁ノ巣海岸ならびに和白干潟の植生は、前出の出嶋ら¹⁾によって春季の成果が報告されているが、他の季節のそれらについては明らかにされていない。そこで本報では、夏季の植物相について調査した結果を報告する。また、本調査で確認された(後述)、アフリカ南部・マダガスカル原産(キク科の一年生または多年生草本)^{16,17)}のナルトサワギク(写真3)の近隣での分布状況についても調査を行ったので、これについても併せて報告したい。本種は、特定外来生物ならびに緊急対策外来種に指定または選定されるなど^{8,9)}、生態系等に及ぼす影響が懸念され、対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある外来種であり、また、法律によって輸入、飼養や運搬、野外に放つことが原則禁止されている。

2. 調査方法

(1) 植物相

雁ノ巣海岸(A)ならびに和白干潟(B)のそれぞれの区間(●)を対象に(図1)、以下のように調査を行った。

2022年7月30日と8月25日、計10時間程度の踏査を行った。ヨシ群落やクロマツ林等の内部は対象外とし、海岸線沿いを歩き確認できる種(維管束植物のみ)を記録した。出現種の属性(在来種、外来種、特定外来生物、レッドリスト掲載種、学名など)は、福岡県^{2,3)}、環境省^{7,8,9)}、大橋ら^{11,12,13,14,15)}、清水ら¹⁶⁾、清水¹⁷⁾、植村ら¹⁸⁾、米倉²⁰⁾、米倉・梶田²¹⁾に従った。

(2) ナルトサワギクの分布

ナルトサワギクの近隣での分布状況について、以下のよう調査を行った。

2022年11月26日、雁ノ巣海岸(A)とその対岸にあるアイランドシティにおいて(図1)、ナルトサワギクが見られた位置や範囲をGPSナビゲーション(GARMIN: GPSMAP 64sc)で記録した。これらのデータは、GISソフト(QGIS Development Team: QGIS 3.28 Firenze)を用いて100m×100mメッシュにおとした。

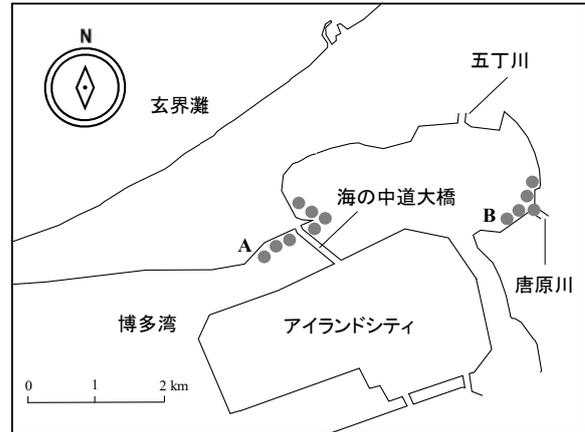


図1 調査地 (A: 雁ノ巣海岸, B: 和白干潟)

Fig. 1 Location of the study site
A; Gannosu Coast, B; Wajiro Tidal Flat

なお、アイランドシティにおける調査の対象は、歩道から目視できる範囲とし、私有地、公園、建設現場等の中心部、草木や建物等で見えない箇所は含まれていない。

3. 結果

(1) 雁ノ巣海岸および和白干潟の夏季の植物相

本調査において、38科87属105種の維管束植物が確認された(表1)。これらのうち、在来種には、クロマツ、クスノキ、シバナ、ハマオモト、コウボウムギ、コウボウシバ、シオクグ、ヒトモトススキ、イソヤマテンツキ、ダンチク、ギョウギシバ、ヤマアワ、メヒシバ、チガヤ、ハマニンニク、ススキ、ヨシ、ネザサ、メダケ、キンエノコロ、エノコログサ、メガルカヤ、ナガミノオニシバ、センニンソウ、ノブドウ、キレハノブドウ、ネムノキ、ツルマメ、ヤハズソウ、ハマエンドウ、メドハギ、クズ、フジ、アキグミ、エノキ、シャリンバイ、テリハノイバラ、マサキ、アカメガシワ、ヌルデ、ハゼノキ、センダン、ハマボウ、ハマダイコン、ハマサジ、ツルソバ、アキノミチヤナギ、コギシギシ、ギシギシ、ハマナデシコ、イノコヅチ、ホソバハマアカザ、ハマアカザ、イソホウキギ、マルバアカザ、ホソバアカザ、オカヒジキ、ハママツナ、ツルナ、ヘクソカズラ、ハマヒルガオ、クコ、イヌホオズキ、ネズミモチ、ハマゴウ、カワラヨモギ、フクド、ヨモギ、アキノノゲシ、ネコノシタ、トベラおよびハマウドの31科62属72種が含まれた。春季の調査で確認されず、夏季で新たに観察されたものに(表1)、ヤマアワ、メガルカヤ、センニンソウ、ツルマメ、アキノノゲシなど33種があった。

他方、外来種の侵入も少なくなく(表1)、ナガイモ、タカサゴユリ、オオニワゼキショウ、アツバキミガヨラン、コバンソウ、シナダレスズメガヤ、ネズミムギ、アメリカスズメノヒエ、タチスズメノヒエ、ニセアカシア、ナンキ

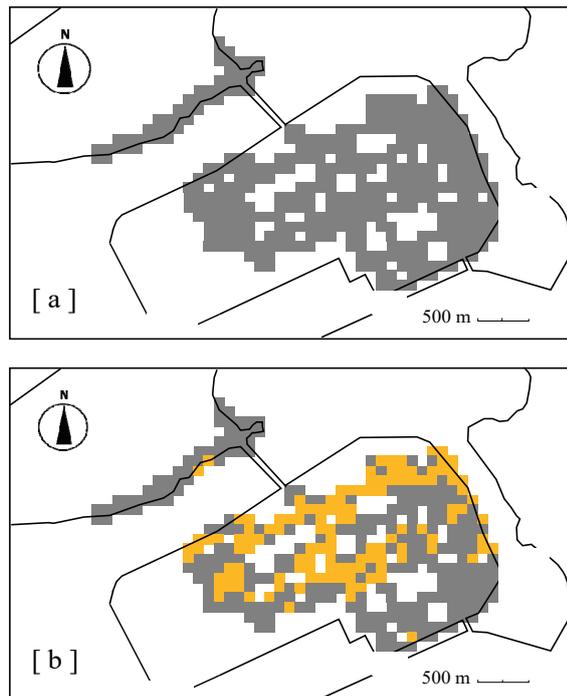


図2 雁ノ巣海岸ならびにアイランドシティにおけるナルトサワギクの分布（2022年）
 灰色：調査できたメッシュ [a], 橙色：[a]のうちナルトサワギクが確認されたメッシュ [b]
 Fig. 2 Distribution of *Senecio madagascariensis* of the Gannosu Coast and Island City in 2022
 Gray; surveyed patches, Orange; observed patches of *S. madagascariensis*

ンハゼ、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、マメグンバイナズナ、アレチギシギシ、ナガバギシギシ、マンテマ、ホコガタアカザ、ウチワサボテン、メリケンムグラ、オオフトバムグラ、アメリカネナシカズラ、ランタナ、アレチハナガサ、アメリカセンダングサ、オオキンケイギク、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、クワイモ、ナルトサワギク、セイタカアワダチソウおよびマツバゼリの18科28属33種が確認された。春季の調査で確認されず、夏季で新たに観察されたものに（表1）、アメリカスズメノヒエ、オオフトバムグラ、アレチハナガサ、クワイモなど12種があった。

(2) ナルトサワギクの分布

対象エリアにおいて、調査できたメッシュを図2 [a] に示した（灰色）。図2 [b] は、ナルトサワギクが確認されたメッシュであり（橙色）、アイランドシティで本種が広く分布しているのがわかる（写真4）。



写真4 沿道に群生するナルトサワギク（アイランドシティ）
 Photo 4 *Senecio madagascariensis* colonizing along a road (Island City)

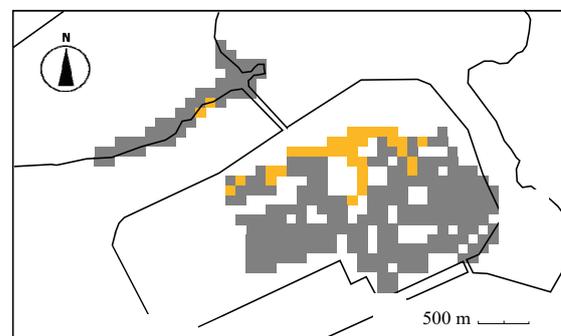


図3 雁ノ巣海岸ならびにアイランドシティにおけるナルトサワギクの分布（2017年）
 山口¹⁹⁾より改変、凡例は図2参照
 Fig. 3 Distribution of *Senecio madagascariensis* of the Gannosu Coast and Island City in 2017
 Modified from Yamaguchi¹⁹⁾, See Fig. 2

一方、2017年に山口¹⁹⁾（未発表）によって調査されたナルトサワギクの分布を図3に示した。図2と同様に、調査できたメッシュを灰色、ナルトサワギクが確認されたメッシュを橙色で示した。同結果は、本研究と調査範囲、調査時期、調査方法がやや異なるが、この数年において、ナルトサワギクが大きく広がっていることを示唆する。

4. まとめ

本報では、雁ノ巣海岸ならびに和白干潟における夏季の植物相について調査した。

在来種に着目すると（表1）、特筆すべき種として、ハマアカザが挙げられる（写真2）。これまでその分布は、我が国では、北海道・本州などとされ、九州での記載はないが¹⁴⁾、本種は雁ノ巣海岸ならびに和白干潟の両サイトで観察され、出嶋ら¹⁾も言及しているとおり、本地域がハ

マアカザの南限である可能性が示唆される。そのほか、環境省レッドリストにおいて⁷⁾、コギシギシは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、シバナ、ハマサジおよびフクトは準絶滅危惧(NT)に指定されている。福岡県レッドデータブックにおいては³⁾、シバナが絶滅危惧ⅠB類、ハマニンニク、ハマボウ、ハマサジ、コギシギシ、イソホウキギおよびフクトが絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。このハマニンニクについても、出嶋ら¹⁾は、上記のマアカザと同様、この地域が南限になっている可能性を示唆している。

今回実施した調査では、春季には確認されず、夏季で得られた新たな種も少なくないことは既に触れた。しかし、上記した特筆すべき種はすべて、春季の調査においても確認されていることから(表1)、これらの保護においては、季節的な移り変わりも踏まえて、それぞれの生育ステージに対応したアクションを示していく必要があると考えられる。

一方、特筆すべき外来種としては、前述のとおり、特定外来生物ならびに緊急対策外来種に指定または選定^{8,9)}されるナルトサワギクが挙げられる。これは、オオキンケイギク(北アメリカ原産のキク科多年生草本^{16,17)})についても同様である^{8,9)}(写真5)。そのほか、アツバキミガヨラン、シナダレスズメガヤ、コマツヨイグサ、ウチワサボテン、ランタナおよびセイタカアワダチソウは重点対策対外来種に、タカサゴユリ、タチスズメノヒエ、ナンキンハゼ、ナガバギシギシ、マンテマ、ホコガタアカザ、オオフトバムグラ、アメリカネナシカズラ、アレチハナガサ、アメリカセンダングサおよびヒメジョオンは、その他の総合対策外来種に選定されている⁸⁾。これら以外にも、ネズミムギ、アメリカスズメノヒエ、ニセアカシア、メマツヨイグサ、アレチギシギシ、メリケンムグラ、オオアレチノギクおよびクイモは、福岡県侵略的外来種リストの要対策外来種あるいは要注意外来種に選定されている²⁾。ナルトサワギクについては、その分布の急速な拡大が示唆され(図2および図3)、早急な対応が不可欠である。

参考文献

- 1) 出嶋 誠・内田泰三・桑原佳子. 和白海岸における海浜植生(春季). 九州産業大学建築都市工学部研究報告第1号. 63-68. 2018
- 2) 福岡県 HP. 第2章 福岡県侵略的外来種リスト選定種の解説. <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39348.pdf>. 2024.2.22 参照
- 3) 福岡県 HP. 福岡県の希少野生生物. <https://biodiversity.pref.fukuoka.lg.jp/rdb/explanations/>. 2024.2.22 参照
- 4) 福岡市 HP. 第1章 福岡市の歴史文化の特徴. <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/files/NewsParagraph914fileja.pdf>. 2024.2.22 参照
- 5) 福岡市 HP. 福岡市推計人口. <https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/13385/1/20240201suikeijinko.pdf?20240207131726>. 2024.2.22 参照
- 6) 環境省. 国指定和白干潟・多々良川河口鳥獣保護区指定計画書(環境省案). <https://www.env.go.jp/houdou/gazou/>



写真5 オオキンケイギク(雁ノ巣海岸)
Photo 5 *Coreopsis lanceolata* (Gannosu Coast)

- 17001/02/2.pdf. 2024.2.22 参照
- 7) 環境省 HP. レッドリスト 2020 について(令和2年). <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/booklist>. 2024.2.22 参照
 - 8) 環境省 HP. 生態系被害防止外来種リスト. <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>. 2024.2.22 参照
 - 9) 環境省 HP. 特定外来生物等一覧. <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>. 2024.2.22 参照
 - 10) 西日本新聞 me. 福岡市の箱崎ふ頭西側埋め立て計画. <https://www.nishinippon.co.jp/item/n/474044/>. 2024.2.22 参照
 - 11) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩. 改訂新版日本の野生植物(第1巻). 391 pp. 平凡社. 2015
 - 12) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩. 改訂新版日本の野生植物(第2巻). 381 pp. 平凡社. 2016
 - 13) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩. 改訂新版日本の野生植物(第3巻). 338 pp. 平凡社. 2016
 - 14) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩. 改訂新版日本の野生植物(第4巻). 348 pp. 平凡社. 2017
 - 15) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩. 改訂新版日本の野生植物(第5巻). 474 pp. 平凡社. 2017
 - 16) 清水矩宏・森田弘彦・広田伸七. 日本帰化植物写真図鑑. 553 pp. 全国農村教育協会. 2001
 - 17) 清水建美. 日本の帰化植物. 337 pp. 平凡社. 2003
 - 18) 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹. 日本帰化植物写真図鑑(第2巻). 579 pp. 全国農村教育協会. 2010
 - 19) 山口翔太郎. 雁ノ巣海岸におけるナルトサワギク(*Senecio madagascariensis* Poir.)の生育環境, 逸出状況および発芽特性. 九州産業大学工学部都市基盤デザイン工学科 2017 年度卒業論文. 2018
 - 20) 米倉浩司. 新維管束植物分類表. 357 pp. 北隆館. 2019
 - 21) 米倉浩司・梶田 忠. BG Plants 和名一学名インデックス(YList). <http://ylist.info>. 2024.2.22 参照

令和5年度学位論文（博士前期課程）要旨

博士前期課程

氏名 22GTI02 楮野 美沙
研究題目名 集合知としてのヴァルター・グロピウス設計
「全体劇場」案(1927)
指導教授 富田 英夫

本論文ではグロピウス設計「全体劇場」案(1927)の設計過程における形態の変化と多様な専門家との関係性について明らかにし、「全体劇場」案を多分野にわたる専門家の知見によってもたらされた集合知の建築として再評価することを目的とした。

まず、グロピウスはモホリ＝ナギの思想が反映されたモルナール設計の「U 劇場」案(1924)を参考に「全体劇場」案の設計を始めたが、「U 劇場」案との類似点を持つ「全体劇場」案の初期案に対して、最終案では独自の特徴を見せるようになったことが明らかになった。この特徴は依頼者ピスカートルが自身の演劇論を表現するために「全体劇場」案の計画以前から開拓してきた演出手法である。さらに、設計段階における形態の変化にはグロピウス建築事務所におけるフィーガーとシェベックという担当者達の個性も関係しており、「全体劇場」案は多分野にわたる専門家の知見によってもたらされた集合知の建築であると言える。

氏名 22GTI09 米倉 捺生
研究題目名 建築の自律性
—多義的カタチによる100年を見る建築の提案—
指導教授 矢作 昌生

建築とは、どの時代や思想においてもカタチによりアウトプットされるものである。カタチは時代や思想を横断して必要不可欠なものとして存在しており、意味のあるカタチが今日も遺っている。カタチとその性格は一对一の関係ではなく、一对多の関係があることで、建築は人間により多様な解釈がなされ自律性を獲得する。

本計画では、まず150の建築作品の分析を行い、形態言語を分類する。建築におけるカタチの多義性を明らかにすると同時に、建築の自律性をカタチから構成し、仮に100年後にそこに存在する建築を提案する。

「建築都市工学部研究報告」編集方針

1. 本誌は、建築都市工学部内における研究活動の紹介を主な目的とし、下記の事項を記載する。
 - (1) 研究報告:論文、調査報告書
 - (2) 国外研修報告
 - (3) 博士論文審査報告
 - (4) 修士論文要旨
2. 投稿原稿には、報告の種類(【論文】、【調査報告書】、【国外研修報告】等)を明記する。
3. 著者のうち少なくとも1名は本学建築都市工学部教職員でなければならない。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。
4. 研究報告や国外研修報告等の投稿原稿は日本語又は英語で書き、カメラレディー原稿に整えて1部を提出し、その形式は「投稿の手引き」に従うものとする。
5. 博士論文審査報告や修士論文要旨は既出の本書を本誌に転載するものとする。
6. 投稿者は、編集委員を通じて原稿を提出しなければならない。
7. 原稿の修正などのために返却された場合は、修正の上、指定された日までに返送すること。
8. 本誌は年1回発行する。

令和5年度建築都市工学部機関誌編集委員会

委員 隈 裕子 (建築学科)
委員 吉村 祐樹 (住居・インテリア学科)
委員 佐藤 辰郎 (都市デザイン工学科)

ワーキングメンバー

江上 史恭 (建築学科)
中川 万理子 (住居・インテリア学科)
古野 正章 (都市デザイン工学科)

令和6年3月20日 印刷

令和6年3月31日 発行

発行者 九州産業大学建築都市工学部
福岡市東区松香台2-3-1

印刷所 ヨシミ工産株式会社
北九州市戸畑区天神 1-13-5